

3. 流域の社会状況

3.1 関係市町

加古川流域は、兵庫県丹波市、篠山市、西脇市、三田市、加東市、加西市、小野市、三木市、加古川市、神戸市、高砂市、稲美町、多可町、播磨町の11市3町にまたがっている。関係市町を以下に示す。

また、加古川流域については、近年において市町村合併が実施されており、旧市町名および合併年月を示す。

表 - 3.1.1 関係市町

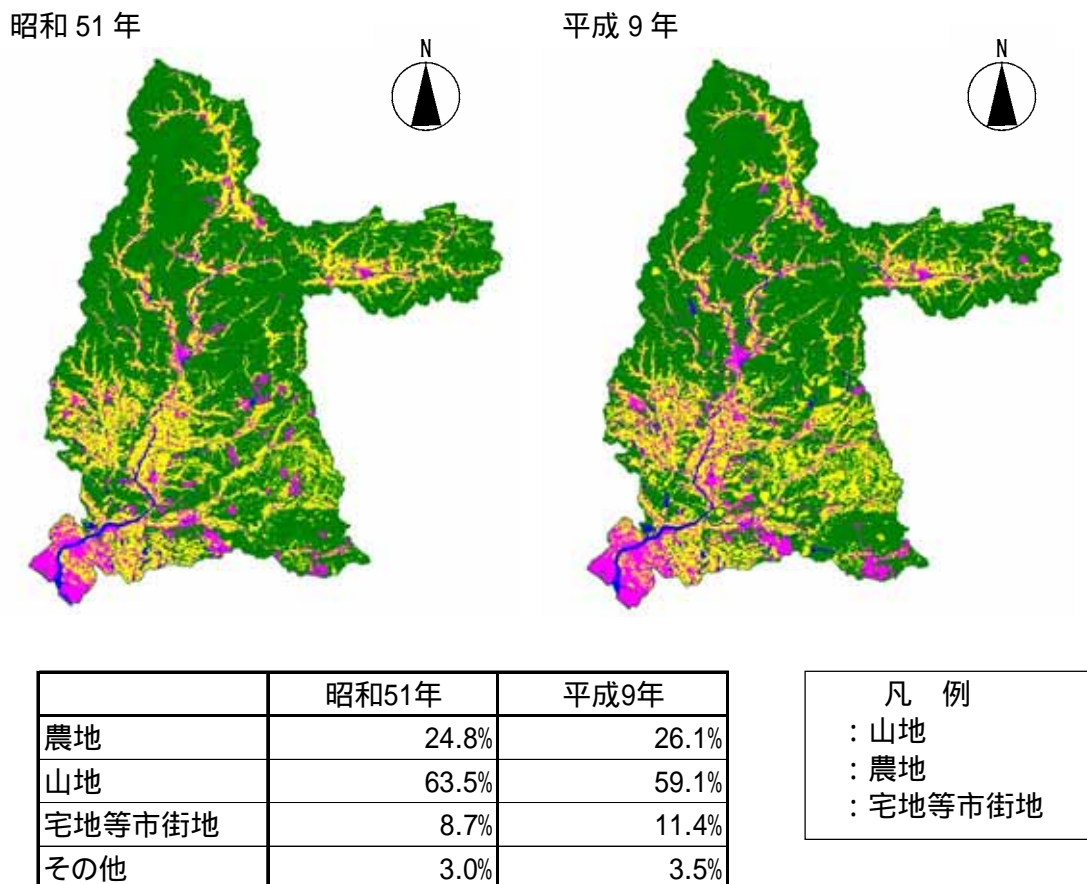
新市町名	旧市町名	合併年月
丹波市	柏原町、氷上町、青垣町、春日町、山南町、市島町	平成16年11月
篠山市	篠山町、西紀町、丹南町、今田町	平成11年4月
西脇市	西脇市、黒田庄町	平成17年10月
三田市	-	
加東市	社町、滝野町、東条町	平成18年3月
加西市	-	
小野市	-	
三木市	三木市、吉川町	平成17年12月
加古川市	-	
神戸市	-	
高砂市	-	
稲美町	-	
多可町	中町、加美町、八千代町	平成17年11月
播磨町	-	

3.2 土地利用

土地利用は山地が 59%、農地が 26%、宅地等が 11%、その他が 4%となっている。加古川流域では昭和 45 年以降、急速に圃場整備が進んだ。これらの農地は、上流の佐治川及び篠山川流域、中下流の台地や河川沿いの低地及び播磨平野に多く分布している。

一方、市街地は下流の加古川市・高砂市・三木市の都市周辺に集中していたが、高度経済成長期に、臨海部が播磨工業地帯の東の拠点として発展し、これにより小野市・三木市・稲美町でも宅地化が進行し、中下流部の人口・資産が急増した。その他の地域でも、河川沿いに集落が分布しており、上流部・中流部・下流部に広く市街地が分布している。

また、昭和 50 年の中国縦貫自動車道開通（兵庫県下）を契機に阪神圏との結びつきが強まり、中上流部で工業団地やゴルフ場、大規模保養施設等の開発が進んだ。



出典：国土数値情報（土地利用メッシュ）

図 - 3.2.1 加古川流域の土地利用の変遷

表 - 3.2.1 流域関連市町土地利用状況 (H17) (単位: km²)

市町名	田	畑	宅地	池沼	山林	牧場原野	雑種地	その他	計
丹波市	53.0	8.1	17.0	0.0	135.4	0.5	6.8	62.1	282.9
篠山市	41.5	4.1	10.1	0.0	209.9	1.8	6.7	103.7	377.6
西脇市	11.3	0.8	9.0	0.1	50.3	0.2	4.2	56.6	132.5
三田市	20.7	2.2	12.3	0.0	71.4	1.7	7.4	94.5	210.2
加東市	28.0	1.9	9.7	0.0	37.1	2.7	18.7	59.5	157.5
加西市	35.3	5.0	11.1	6.2	43.2	6.5	8.6	35.0	151.0
小野市	23.5	1.4	10.8	0.0	22.6	0.8	6.4	28.1	93.7
三木市	42.5	3.6	15.1	0.0	51.5	9.5	41.3	40.2	203.6
加古川市	25.5	2.7	32.9	0.3	17.3	0.5	6.3	53.2	138.5
高砂市	2.9	0.7	15.4	0.2	4.0	0.0	2.8	8.3	34.4
神戸市	47.1	6.2	110.8	0.3	122.9	6.8	103.8	154.1	552.0
稲美町	15.9	0.9	5.9	0.0	1.2	0.0	1.5	9.5	35.0
多可町	13.8	1.1	5.3	0.0	66.4	5.3	2.6	52.4	146.8
播磨町	0.8	0.0	5.4	0.1	0.0	0.0	0.4	2.5	9.2
計	361.8	38.6	270.7	7.3	833.1	36.2	217.5	759.8	2524.8
計(神戸市除く)	314.6	32.4	159.9	7.0	710.2	29.4	113.7	605.6	1972.8
比率	14.3%	1.5%	10.7%	0.3%	33.0%	1.4%	8.6%	30.1%	100.0%
比率(神戸市除く)	12.5%	1.3%	6.3%	0.3%	28.1%	1.2%	4.5%	24.0%	78.1%

出典：兵庫県統計書 平成 17 年

注意：加東市は社町、滝野町、東条町の合計値である。

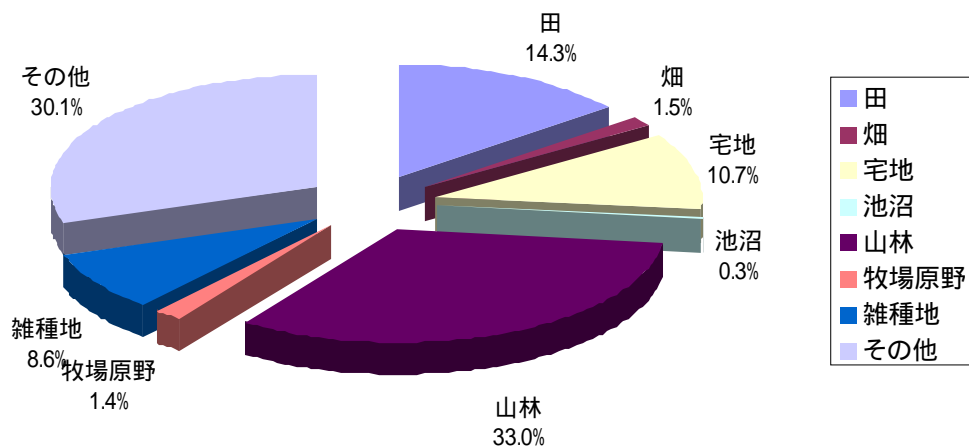


図 - 3.2.2 加古川流域の土地利用状況

3.3 人口

昭和 50 年に 200 万人弱だった流域関連市町の人口は、その後微増を続け平成 17 年には約 244 万人となり、兵庫県全体の約 44%を占める。

流域内人口は約 60 万人、人口密度は約 340 人であり、浸水想定区域内人口は約 21 万人、人口密度は約 2,900 人である。

表 - 3.3.1 流域関連市町の人口の変化（単位：人）

市町名	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年
丹波市	72,401	72,982	74,103	73,659	73,988	72,862	70,810
篠山市	42,026	41,685	41,144	41,802	44,752	46,325	45,245
西脇市	46,182	46,380	46,889	46,220	46,339	45,718	43,953
三田市	35,261	36,529	40,716	64,560	96,279	111,737	113,572
加東市	32,410	34,275	36,401	38,270	39,743	40,688	39,970
加西市	50,161	51,051	52,107	51,784	51,706	51,104	49,396
小野市	40,576	43,574	45,686	46,007	48,214	49,432	49,761
三木市	63,746	78,297	82,636	84,445	86,562	86,117	84,361
加古川市	183,280	212,233	227,311	239,803	260,567	266,170	267,100
高砂市	77,080	85,463	91,434	93,273	97,632	96,020	94,813
神戸市	1,360,605	1,367,390	1,410,834	1,477,410	1,423,792	1,493,398	1,525,393
稲美町	23,425	27,609	29,579	30,603	31,377	32,054	31,944
多可町	26,252	26,095	26,179	25,745	25,440	25,331	24,304
播磨町	20,011	26,527	29,757	30,813	33,583	33,766	33,545
計	2,073,416	2,150,090	2,234,776	2,344,394	2,359,974	2,450,722	2,474,167
対S50比	1.00	1.04	1.08	1.13	1.14	1.18	1.19
対兵庫県の割合	41.5%	41.8%	42.3%	43.4%	43.7%	44.2%	44.3%
兵庫県全体	4,992,140	5,144,892	5,278,050	5,405,040	5,401,877	5,550,574	5,590,601

出典：兵庫県統計書 平成 17 年

注意：三木市は三木市、吉川町の合計値、加東市は社町、滝野町、東条町の合計値、多可町は中町、加美町、八千代町の合計値である。

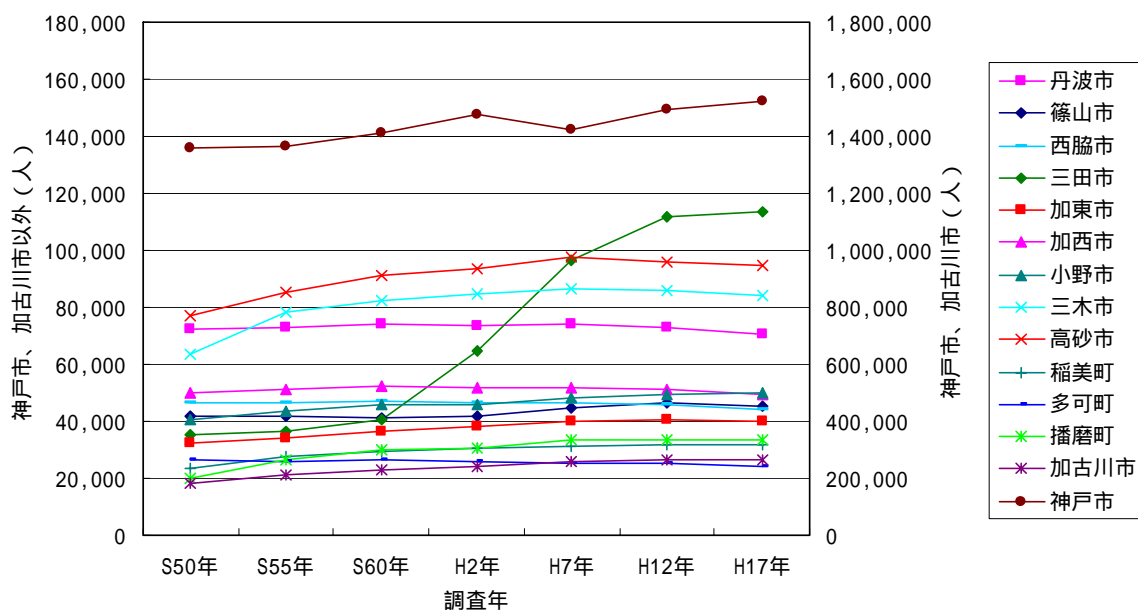


図 - 3.3.1 流域関連市町の人口の変化

3.4 産業

流域内の産業としては、河口部に位置する加古川市や高砂市を主とした播磨臨海工業地域において重化学工業が盛んであり、製造品出荷額は同程度の面積、人口を有する政令市を凌駕する。

一方、西脇市、三木市、小野市等の中流部では染物、金物、そろばん等の伝統産業が盛んであること、名勝闘竜灘（加東市）や舟運（主に江戸時代）で栄えた歴史等が流域の特色となっている。

平成 17 年の関係市町の全体の製造品出荷額は 62,111 億円となっており、兵庫県全体の 46% を占める極めて重要な地域となっている。

表 - 3.4.1 農業生産額
(百万円)

市町名	生産額
丹波市	8,187
篠山市	5,477
西脇市	1,955
三田市	3,259
加東市	3,802
加西市	5,273
小野市	4,095
三木市	5,488
加古川市	3,271
高砂市	339
神戸市	11,172
稲美町	2,962
多可町	2,137
播磨町	78
計	57,495

表 - 3.4.2 流域関連市町従業者数(人)

市町名	一次産業	二次産業	三次産業	計
丹波市	47	12,451	13,999	26,497
篠山市	192	6,499	9,843	16,534
西脇市	27	7,257	12,120	19,404
三田市	120	9,801	22,297	32,218
加東市	44	8,022	10,986	19,052
加西市	46	10,191	8,529	18,766
小野市	106	9,782	9,712	19,600
三木市	75	10,792	21,716	32,583
加古川市	160	25,937	56,155	82,252
高砂市	18	16,592	20,941	37,551
神戸市	479	127,489	506,554	634,522
稲美町	126	6,747	5,500	12,373
多可町	30	4,153	3,436	7,619
播磨町	0	6,071	5,394	11,465
計	1,470	261,784	707,182	970,436
割合	0.2%	27.0%	72.9%	100.0%

出典：兵庫県統計書（平成 17 年）

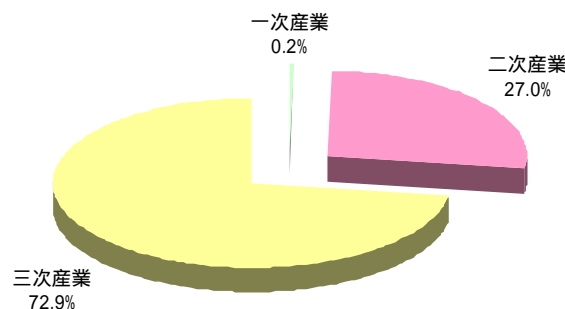
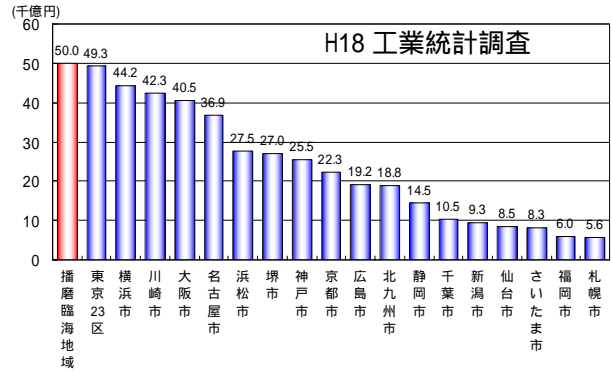
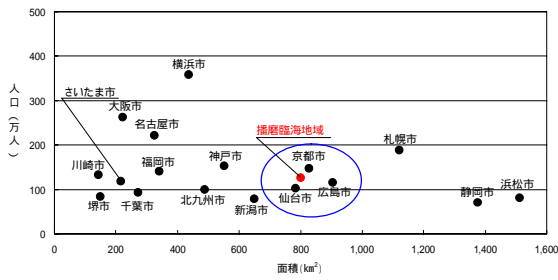


図 - 3.4.1 流域関連市町の従業者割合



播磨臨海工業地域とは、兵庫県の姫路市、明石市、高砂市、稲美町の4市2町で構成された地域である。

図 - 3.4.2(1) 面積・人口比較

図 - 3.4.2(2) 製造品出荷額

表 - 3.4.3 流域関連市町製造品出荷額の変化 (単位：億円)

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
丹波市	1,520	2,204	2,092	2,094	2,068
篠山市	737	1,326	1,512	1,389	2,070
西脇市	817	820	1,253	1,538	1,135
三田市	631	2,047	2,924	3,907	3,696
加東市	970	2,067	2,551	2,989	2,591
加西市	1,607	2,049	1,911	1,812	2,127
小野市	1,111	1,724	1,888	2,112	2,215
三木市	1,206	1,612	1,633	1,555	1,556
加古川市	8,259	8,417	6,997	6,394	8,084
高砂市	5,760	5,981	7,102	7,002	7,012
神戸市	28,341	32,809	27,582	26,473	25,521
稲美町	1,235	1,526	1,608	1,652	1,568
多可町	496	575	579	419	475
播磨町	1,810	2,270	2,458	2,209	1,992
計	54,499	65,426	62,089	61,544	62,111
兵庫県全体に占める割合(%)	42.1%	42.4%	43.1%	43.7%	46.1%
兵庫県全体	129,580	154,242	144,034	140,700	134,778

出典：兵庫県統計書（平成17年）

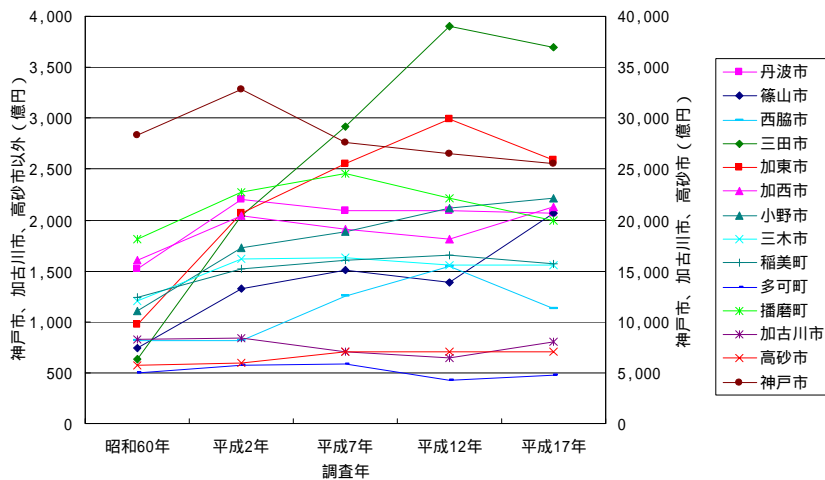


図 - 3.4.3 流域関連市町製造品出荷額の変化

3.5 将来構想

兵庫県では、平成 13 年 2 月、県民主役・地域主導のもと、21 世紀初頭の兵庫県のめざすべき社会像とその実現方向を明らかにした「21 世紀兵庫長期ビジョン」を策定している。

「21 世紀兵庫長期ビジョン」は、「地域ビジョン」と「全県ビジョン」からなっており、「地域ビジョン」は、歴史、風土、文化等を共有する広域的な圏域ごとに、地域住民が地域の将来像を描き、その実現に向けて主体的に取り組む指針となっている。

「全県ビジョン」は、「地域ビジョン」の実現を支援するとともに、全県的な視点から見た基本課題やめざすべき将来像とその実現方向を明らかにしたものである。

「地域ビジョン」の丹波地域と東播磨地域の将来構想を以下にあげる。

(1) 丹波の夢ビジョン - みんなで丹波の森 - (丹波地域)

- ・「丹波の森宣言」と「丹波の森構想」

丹波地域では、昭和 63 年に県民自らの提案により丹波の地域づくりの理念として、「丹波の森宣言」がなされ、平成元年には「丹波の森構想」がこの理念を実現する地域づくりの指針として策定された。

- ・丹波地域ビジョン「みんなで丹波の森」

丹波の森に対する固有の課題や時代潮流を認識しながら、丹波の魅力を創造し、みんなの「共有財産」として「守り」「育て」「活かし」ていく。

(2) 東播磨の夢ビジョン - ひょうごのハートランドをめざして - (東播磨地域)

- ・新しい時代、新しい地域づくりへ

「東播磨地域ビジョン」は、社会の急速な変化のなかで、地域にかかわる人々が、地域がこれまで育んできた資源や財産を最大限に生かしながら、多様な価値観に応じた真の豊かさや、生活の楽しさを実現できる地域づくりの方向を明らかにしよう、と提案するものである。

3.6 交通

流域内の交通としては、山陽新幹線、JR 山陽本線等の鉄道や、山陽自動車道、中国縦貫自動車道、国道 2 号、国道 250 号、加古川バイパス等の道路が加古川を横断しているとともに、JR 加古川線、JR 福知山線や北近畿豊岡自動車道、国道 175 号が加古川沿いに並行している。さらに、河口部の重要港湾東播磨港は西側に隣接する特定重要港湾の姫路港とともに播磨工業地帯の中枢港湾であり、本流域は陸海交通の要衝となっている。

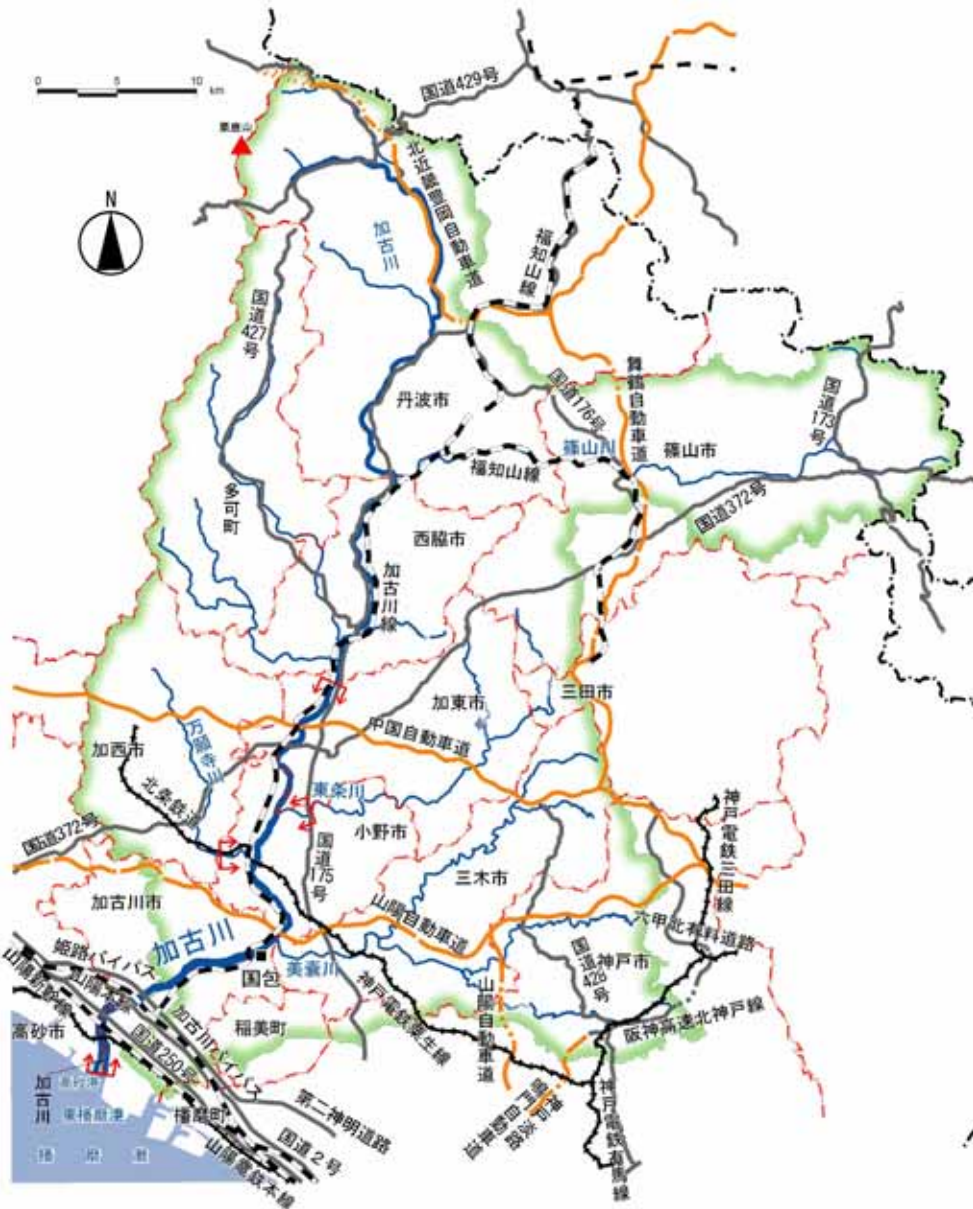


図 - 3.6.1 加古川流域における交通網